

治水「田んぼダム」推進

袋井市議会でも市側

袋井市議会は6日、本会議を開き、5氏が一般質問した。市側は答弁の中で、治水対策として「田んぼダム」の取り組みを拡大していく考えを示した。

黒岩靖子氏(自民公明クラブ)の質問に答えた。田んぼダムは、大雨時に田んぼに一時的に雨水をためることで、排水路や河川への流出を抑制し、洪水被害を軽減する。

昨年度、袋井東地区の約

10鈔であった実証実験で、

静岡理工科大の松本健作教授が検証した。その結果、

昨年7月の1時間当たり40ミリの大雨の場合、1鈔当たり270トの貯留効果があったと試算され、河川の水位上昇の抑制効果が確認された。

本年度は袋井西地区を加えた約25鈔に拡大して実施した。協力者の耕作者に収穫量や農作業への影響をアンケートするとともに、流域の減災効果を松本教授が検証している。来年度につ

いて大場規之市長は「浸水常襲地区である蟹田川流域や沖之川流域で取り組み面積を拡大させながら、市域全体の取り組みにつなげていきたい」と述べた。

ほかに鈴木賢和(自民公明クラブ)、竹野昇(無党派)、太田裕介(自民公明クラブ)、竹村真弓(無党派)の各氏が登壇した。

(牧田幸夫)